

気づき・考え・実行する
児童生徒を育むために



青少年赤十字 活動実践事例集

2022

- 釧路さかえ保育園
- 函館市立高丘小学校
- 北斗市立大野小学校
- 余市町立登小学校

- 白老町立白老中学校
- 恵庭市立柏陽中学校
- 北海道江別高等学校
- 北海道留寿都高等学校

はじめに

....Introduction



新型コロナウイルス感染症の拡大は、子どもたちをとりまく環境へ大きな影響を及ぼしてきました。

子どもたちをとりまく環境が急激に変化するなかで、子どもたちが自らやっていこうとする気持ちをいかに作っていくか、価値ある体験をどう作るかが課題になっていると思われます。

そのような中、青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という具体的な行動を実践し、その活動を通じて自らが学び、お互いを尊重することで、誰の心中にもある「やさしさ」と「思いやり」の心を育んでいます。

現在、北海道内では386の学校（園・所）が青少年赤十字に加盟し、活動しています。

これらの学校（園・所）では、自分たちの住んでいる地域や、世界に目を向け、「気づき」「考え」「実行する」という青少年赤十字の態度目標を実践し、様々な活動を行っています。

このたび令和4（2022）年度における青少年赤十字の実践活動をまとめた事例集を作成しました。

本書を通じて、今後の青少年赤十字活動のヒントとなり、また、加盟を検討している学校（園・所）においては参考資料としてお役に立つと幸いです。

令和5（2023）年6月

日本赤十字社北海道支部

青少年赤十字（JRC）とは

はじまり



子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。

これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）は青少年赤十字を創設することを決めました。日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。JRCはそれから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えました。

JRCが大切にしていること

JRCの実践目標

健康・安全

生命と健康を大切にする

奉仕

人間として社会のために、人のために
尽くす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、
仲良く助け合う精神を養う

気づき

身近な問題を発見する

考え

問題解決のための
道筋や方法を探る

実行する

活動に取り組み、評価と
反省を次へ活かす

JRCの導入・ 活用のメリット



赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実が期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。赤十字そのものを「教材」として存分にご活用ください。

JRCとSDGs

国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、赤十字では目標の達成にも貢献しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み継ぐられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 和平と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	

平成17(2005)年加盟

01 テーマ

- 普段使用している公園内の花壇にきれいなお花を植えて、「地域住民のみなさんに笑顔になってもらおう」
- 畑で野菜栽培と収穫体験
- 自分たちで「気づき・考え・行動」出来る力を身に付ける。

....Theme



02 活動内容

- 公園の花壇2か所にお花を植え、雑草取り、水やり等のお世話をする。
- 公園の花壇のお花を見に来た人が元気になれるようなメッセージボードを作成して花壇へ置く。
- 子どもたちが日々の生活する中で、「トイレのスリッパを揃える、廊下に落ちているゴミを拾う、困っているお友だちを気遣う等」保育の生活で「自分たちで、気づき・考え・行動」出来るように指導をしていく。
- 畑で育てた野菜をお世話して、収穫を喜ぶ。

....Content



03 活動のねらい

- 地域の方々に花壇に咲いているお花を見て、笑顔で元気になってもらうため、心を込めて花壇のお世話ををする。
- 野菜栽培を通して、食への興味関心を育て豊かな心情を育む。
- 将来的にこの時期から、子どもたちが自分で「気づき・考え・行動」出来る力を身に付けられるようにする。

....Purpose



04

活動展開

....Expansion

- 幸町公園にある2か所の花壇へ花の苗を植える。
- 雑草取りや水やりを定期的に行う。
- 6月、畑に5歳児が「じゃがいも」の種芋を植え、4歳児は「人参」の種まき、3歳児は「ラディッシュ」の種まきを行う。
- お世話を通して食への興味関心を持ち、収穫する喜びを体験する。
- 収穫した野菜は更なる食への関心を高めるため、自分たちで調理をして味わう。
- 保育の中で子どもたちと「気づき・考え・行動」するということの話し合いをする。また年齢によっては保育士が分かりやすいように説明を行う。
- 自分たちで「気づき・考え・行動」出来た時には、『できたよシート』を活用する。



05

成 果

....Achievement

●公園の花壇整備

- 子どもたちが公園へ遊びに行った後や運動会練習後等、花壇の雑草取りを頑張って行っていた。



●野菜栽培と収穫体験

- 3歳児は「ラディッシュ」を育てた。ラディッシュは甘酢漬けにして食べた。
- 4歳児は「人参」を育てた。気候のせいで成長が遅くて子どもたちも心配したが何とか収穫することができ、子どもたちは喜んで土から人参を引き抜いていた。人参はそのまま茹で、マヨネーズで食べた。
- 5歳児は「じゃがいも」を育てた。じゃがいもは茹でてバターをのせて味わった。今年度もコロナウイルス感染症対策の関係でクッキングが出来ない状況があり、給食さんに調理してもらったものを味わうというかたちになってしまったが、自分たちで収穫した野菜は、野菜嫌いの子も「おいしい」と食べていた。

●「気づき・考え・行動」する力を身に付ける

- 各年齢で自分たちが出来ることは何かを話し合ったことで、年齢ごとに色々な意見が出たことを各自実践する姿が見られた。

06

反省点

....Reflection

- コロナウイルス感染症対策が広がった時期と野菜の収穫時期が重なり、収穫した野菜でのクッキングができなかつた。
- 地域的に地震、津波が心配な地域に保育園があることから、次年度は防災について青少年赤十字として取り組みに力を入れていきたいと思う。

01 テーマ

....Theme

気づき、考え、実行する精神をもとう

02 活動内容

....Content

「奉仕」「安全」「親善」を窓口にしてボランティア活動を行う

03 活動のねらい

....Purpose

- ボランティア活動等を通して、自分や身近な人の健康や安全のために役に立とうとする心や自主・自律の態度を養う

04 活動展開

....Expansion

● 奉仕活動

- 全校児童による定期的な校舎周辺の清掃活動を実施した。校舎周りやグラウンド、校舎周辺道路脇等のゴミ拾いをおこなった。
- さらに、校内の清掃活動を徹底し、日頃から皆が気持ちよく過ごせる居場所となるよう、すみずみまで清掃活動をおこなった。
- また、学校花壇への水やりや草取りなどの世話を、児童が登校時に自主的におこなっていた。
- さらに、児童会が中心となって赤い羽根募金を全校児童に呼びかけて募金活動をおこなった。

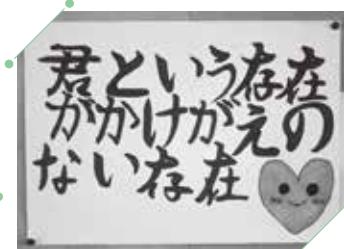
● 安全活動

- 感染症拡大防止のために、児童会の保健委員が中心となり、手洗いやソーシャルディスタンスについてのポスター作成・掲示や校内放送を使っての啓発活動をおこなった。
- また、給食前や休み時間後の手洗いの徹底を、保健委員会や各学級の係が中心となって呼びかけた。
- PTAが中心となって作成した校区内の「安全マップ」をもとに、校区内の危険箇所について確認し、高学年が低学年に公園使用のルールやマナーについて教えた。
- さらに、町内会の方々の協力を得て、低学年を中心に安全な下校の仕方について学んだ。



● 親善活動

- 近隣の老人福祉施設に、全校の児童が作成したカレンダーをプレゼントする「カレンダー作戦」を行った。
- また、児童会の生活委員が中心となって、毎朝のあいさつ運動を実施している。
- 児童会がいじめ撲滅ポスターを作成し、校内に掲示した。



05

成 果

....Achievement

● 奉 仕

- 自主的な清掃活動を続けることで、身の回りを整理整頓する姿勢がどの学年にも身についてきている。
- また、花壇の世話をすることで自然愛護の気持ちが育つとともに、他者と協力しながら活動する楽しさを知る一つの機会となっている。
- 募金活動を一つの機会として、他の人のために自分ができることを考えることができた。
- 奉仕活動を通して、学校や地域の一員としての自覚と責任感が育っている。



● 安 全

- マスクの着用や手洗い、換気の必要性について、互いに声をかけ合って意識することができた。自分を守ることは、家族や身近な人を守ることにつながることを学んでいる。
- 地域の危険箇所について知り、放課後の安全な遊び方について考えることができた。
- 学校外においても、高学年が低学年に声をかけて面倒を見る機会が多くなっている。



● 親 善

- カレンダー作戦での地域の方々との交流を通し、思いやりの気持ちが育つとともに、他者に喜ばれることのうれしさを知ることができた。
- 朝のあいさつ運動によって、児童のあいさつの声が大きくなっている。
- いじめ撲滅ポスターを作成、掲示することで、いじめについて各学級で考える機会となっている。

06

反省点

....Reflection

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年実施してきている地域の老人福祉施設との交流（施設を訪問して、器楽演奏や合唱などをする）について、一部中止となった。
- 地域の方々と触れ合い、喜んでいただく機会となっているこれらの活動等を、今後も実施可能な方法を探りながら継続しておこなっていきたい。

01

テーマ

....Theme

人のため、社会のために、気付き、考え、
実行できる子になろう

02

活動内容

....Content

- 赤十字についての学習
- ウクライナ支援募金活動
- コミュニケーションスキル
- 防災体験
- 清掃ボランティア活動
- 除雪ボランティア活動



03

活動のねらい

....Purpose

- 赤十字・青少年赤十字についての学習や体験活動を通して「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」等に関する知識理解や他の人と主体的に関わろうとする態度を養う。

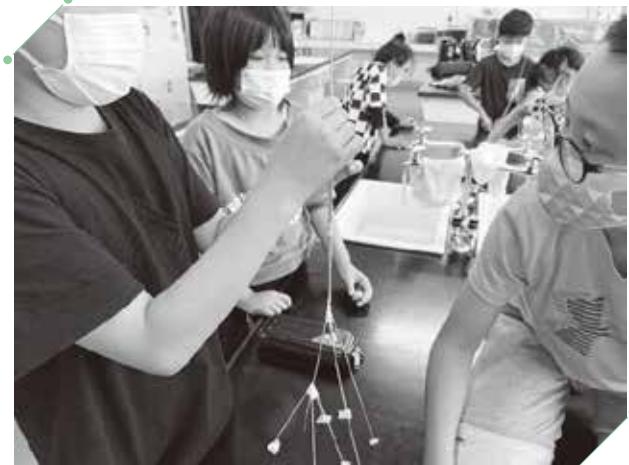


04

活動展開

....Expansion

- 5月 青少年赤十字クラブ設立 加盟登録
- 6月 ウクライナ支援募金 全校児童への呼びかけ 清掃ボランティア活動
- 7月 赤十字についての学習
- 8月 コミュニケーションスキル 竹ひごタワー
- 9月 コミュニケーションスキル 竹ひごタワー
- 11月 防災体験 ダンボールベッド・毛布ガウン
- 12月 除雪ボランティア活動
- 1月 除雪ボランティア活動
コミュニケーションツールとしての「カプラ」を全校児童への供用開始



05

成 果

....Achievement

- 教育課程内のクラブ活動として青少年赤十字クラブを設立し、加盟登録することができた。
- ウクライナ支援募金を全校に呼びかけ、多くの児童から協力を得ることができたとともに、青少年赤十字活動についての理解、啓発につなげることができた。
- クラブでの体験活動を通して、他者と主体的に関わろうとする態度を養うことができた。

06

反省点

....Reflection

- クラブ活動として開設初年度は少人数の活動ではあったが、募金活動や防災体験など、他の児童に見える形で活動が展開でき、赤十字活動への啓発へつながった。
- 活動助成金を活用し、コミュニケーションツールとして「カプラ」を購入し、休み時間には全校児童で供用した。友だちと楽しみながら協力性や創造性を高めることにつながった。
- コロナ禍のために、トレーニングセンターが中止となったのは、たいへん残念であった。

01

テーマ

....Theme

地域からの学び

02

活動内容

....Content

花壇づくり・米作り・地域人材活用

03

活動のねらい

....Purpose

- 花や作物を育てることで、植物や生き物の成長を学ぶ。また、命の大切さや食についてもより深く考えるようになる。
- 地域、身近な人たちから健康や福祉について学び、日常生活に活かすこと、また、助け合い、共生の心を養う。

04

活動展開

....Expansion

● 5月

- | | |
|---------|---|
| 「環境整備」 | 保護者の参加によりグラウンド、教室環境の補修を行った。 |
| 「花壇づくり」 | 余市紅志高校との連携事業。
教員3名と生徒12名が来校し、花壇の設計、植え込み等お兄さんお姉さんより指導してもらった。その後の成長(お世話)については学級ごとに行った。 |
| 「資源回収」 | 保護者・地域、区会の方の協力を得て資源回収を行った。 |
| 「田植え」 | 川人さんの農場での田植え体験。冷たい水の中に入り、自分の苗を植え秋に収穫する。 |
| 「ふきの迷路」 | 桟敷さんの農場にお邪魔して、ふきの畑で迷路を使って活動した。 |
| 「避難訓練」 | 保護者に消防職員がおり、消火器訓練も含めてわかりやすく指導してもらった。 |



- 6月から10月 4回
「手話教室」
- 7月
「福祉体験教室」 余市紅志高校との連携事業。
今年度は、車いす体験、アイマスク、
高齢者体験など高校生8名により指
導してもらった。
- 「さくらんぼ狩り」 地域の川人さんの農場でのサクランボ狩り体験を行った。
- 7月から9月
「地域訪問・家庭訪問」 (ドメーヌタカヒコ・サグラ・森ファーム)
有名な保護者のワイン農家、リンゴ農家の特徴をいかし、時期と相談しながら、
3年生が総合的な学習の時間を使い体験してきた。
- 10月
「かぼちゃ細工教室」 地域の方からかぼちゃを寄贈してもらい、その方の指導の下、ハロウィンに向けてかぼちゃ細工を作成した。
- 「食育」 余市の食育の会より講師を招き、食の大切さをお話しいただいた。
- 11月
「学校環境整備」 保護者の参加により、グラウンド、教室環境の補修を行った。
- 12月
「PTA餅つき大会」 児童・職員・保護者・地域の方約60名の参加により、餅つきを行った。
自分たちで植えた苗で育てた米を使った餅はおいしかった。
- 1月
「がん教育・認知症講座 (PTA会長)」 学校医・PTA会長よりお話ををしていただいた。



05

成 果

....Achievement

- 恵まれた環境にあり、地域人材や資源には恵まれている。
- 「地域・福祉・体験」を学校のテーマとして活動できた。
- 子どもたちは、へき地複式の特徴を生かし、他では体験できないことに取り組むことが出来た。
- 自然、命、健康などを考えることになった。そのことにより、地域とも深くつながることができ、地域と共に歩む学校づくりが前進している。

06

反省点

....Reflection

- コロナ感染症感染防止の点では、日程調整が難しかった。
- コロナ感染症減少傾向の時を選び、うまく年間予定の行事は実施出来たが、来年以降もはっきりした「ねらい」を立て、状況を見ながら実施したい。
- 健康は第一である。活動していくうえで、赤十字からの助成金は大いに役立った。感謝している。
しかし、より身になる活動を行うための予算確保が最大の課題でもある。

01 テーマ

....Theme

自ら学び、奉仕・健康・安全を実践しよう ～奉仕の心で自分と周りを美しく～

02 活動内容

....Content

- ① 校内外の美化ボランティアとして、生花や花壇整備等による美化を行う。
- ② 清掃ボランティアとして、地域の美化に努める。
- ③ 団員研修として、実践的研修を行う。
- ④ 赤十字奉仕団と連携した活動を行う。



03 活動のねらい

....Purpose

- 赤十字の人道的な理念を理解し、21世紀を担う中学生の社会的貢献への夢とボランティア精神の育成、さらには世界平和の心を滋養すること。

04 活動展開

....Expansion

- ① 青少年赤十字白老中学校総会 (6月1日)
赤十字団員 14
- ② 白老町赤十字奉仕団総会 (4月23日)
校長参加
- ③ 学校花壇整備
 - 花壇土起しと雑草取り (6月1日)
 - 花壇整備 (6月15日)
 - 花の苗植え (6月27日)
 - 雑草取りと水やり (~ 10月)
 - 花壇後片付け (10月14日)



- ④ 白老町赤十字奉仕団との合同研修
※コロナのため中止
- ⑤ 環境整備活動 (9月)
生け花教室
※コロナのため中止
- ⑥ 赤い羽根募金への参加 (10月5日)
※参加者 6名
- ⑦ 地域清掃
第1回地域清掃 (10月21日)
※参加者 12名
- ⑧ 生徒玄関前除雪
期間：12月～3月
内容：降雪状況に応じて実施



05 成果

....Achievement

- ① 様々な活動を通じてボランティアへの意義や、社会に貢献することの素晴らしさを体験を通じて育む機会となっている。
- ② コロナ禍のため制限のある中での活動であったが、地域清掃等や赤い羽根募金などへの参加を通して、社会人にとって必要な地域貢献の大切さを実感することができた。
- ③ 花壇整備では、美しい環境、小さな命などへの思いを膨らませて意欲的に取り組めた。

青少年赤十字活動は、本校に定着しております。
今後とも日本赤十字社北海道支部からのご支援
を宜しくお願ひいたします。



06 反省点

....Reflection

- ① コロナ禍のため予定していた活動が十分にできなかった。
- ② 生徒数減少による会員数の減少
- ③ リーダーを育て主体的な課題解決につなげたい。
- ④ 合同研修会は残念ながら中止となりました。炊き出し訓練と救命救急実習を予定していましたが、有意義な活動なので、次年度以降も継続したい。
- ⑤ 環境整備活動では、生け花教室を開催予定であったが、コロナ禍のため今年度は中止となった。

恵庭市立柏陽中学校

平成4(1992)年加盟

01 テーマ

....Theme

ボランティア活動の推進

02 活動内容

....Content

- ① 校区内の地域・公園の清掃活動
- ② JR恵み野駅周辺の清掃活動
- ③ 各種募金活動
- ④ ボランティアによる校内清掃活動
- ⑤ 小中連携による地域(植樹升)の花壇活動



03 活動のねらい

....Purpose

- ① ボランティア活動の重要性を体感させ、地域の人達と交流する
- ② 公共機関を大切にする心を育む
- ③ 街頭募金活動を通して、募金の用途や重要性を理解する。
- ④ 自分たちが使用している施設を大切にする心を育む。
- ⑤ 小学生・地域住民・保護者等との一体感の基、花の街恵庭を創造する。



04 活動展開

....Expansion

- 生徒会の活動と関連付け、生徒会執行部が青少年赤十字の一員であり、学校のリーダーであることを意識して各種活動を行った。
 - ① 6月上旬、地域の方々と協力して、学校周辺の清掃活動を行った。
 - ② 7月下旬、JR恵み野駅周辺の清掃活動を行った。生徒会執行部が応募者を募り、自主ボランティア生徒約60人により活動を行った。
 - ③ 11月下旬、生徒会執行部自主ボランティア生徒約30名により、2日間3か所で赤い羽根共同募金活動を行った。
 - ④ 毎月、生徒会美化委員会と学級美化班で、靴箱清掃を実施した。日々の校内の清掃活動以外でも来客用の靴箱を含めて、しっかりと清掃活動を行っている。
 - ⑤ 7月中旬の土曜授業日に、小学生約100人、CS役員及び地域住民・保護者約80人と教職員約30人が一体となって、学校横の道路沿い約200Mの植樹帯に、約2000本の花の苗を植えた。



05 成果

....Achievement

- 本校の重点目標達成3つの柱の一つ「貢献」を軸に、コミュニティ・スクールの機能を生かしながら、地域の方々と共に清掃活動や花植活動などに取り組んだ。「ふるさと」を愛する心や、自分達の住む地域を大切にする態度が育まれ、自分たちが多くの人々に支えられていることに気づき、感謝の気持ちを持つことの一助となった。
- 各種活動に参加した多くの生徒は、自身の活動が社会において役に立っていること(社会貢献)を実感していた。直接的なこれらの体験が、ボランティア精神の高揚につながり、その後の実践的な行動規範へつながっている。
- 清掃活動の一部や植栽活動を小中一貫教育の取り組みや、若草小・柏陽中コミュニティ・スクールの活動として位置付けながら取り組んだ。これにより、それぞれの活動がより充実したものとなり、校種間連携・地域連携の強化・深化に大きな成果が認められた。



06 反省点

....Reflection

- 赤い羽根募金活動が後期の生徒会役員による実施のため、11月実施となる。気温の低い時期で、6時間授業後の放課後に実施する活動のため、健康面への配慮が必要となる。また、日没も早まるため、暗い中を帰宅するなどの安全面にも配慮が必要である。
- 募金活動やボランティア活動などの実施予定を、できるだけ早く保護者メールや地域への学校便り等で告知した。今後も継続が必要である。
- 小中で連携した児童会と生徒会の募金や清掃ボランティア活動の取り組みができるいか、更に検討を進める。

01

テーマ

....Theme

～様々なボランティア活動を通じて、その活動の背景を理解し、人としての在り方や生き方を考える～

02

活動内容

....Content

地域の福祉施設訪問、募金活動(校内・校外)、校内エコキャップ回収活動

03

活動のねらい

....Purpose

奉仕活動や体験活動を通して、福祉やボランティアについての理解を深め、実践していく態度を育成する

04

活動展開

....Expansion

① 江別市内福祉施設訪問 (施設側の都合で未実施)
※例年は、財団法人江別市在宅福祉サービス公社「いきいきセンターさわまち」で、日中一時支援事業への活動支援を実施。

② 募金活動

- 緑の募金運動 (6/21・22校内実施)
- ユネスココーアクション活動キャンペーン
街頭募金活動 (未実施)
- 第103回あしなが学生募金ボランティア活動
(10/9札幌駅前 参加)
- 赤い羽根共同募金活動校内募金 (未実施)
- 江別市民歳末たすけあい運動募金活動
(12/20・21校内実施)
- 江別赤十字社資街頭募金活動 (10月中止)
- スノーフェスティバル (未実施)



③ その他活動

- 上江別幼稚園 預り保育児への活動支援
(幼稚園側の都合で未実施)
- パラ・スポin Ebetsu ~フライングディスクの補助ボランティア (4/23江別市総合体育館 参加)
- 校舎敷地内ゴミ拾い (4/26実施)
- 江別市演奏会運営ボランティア
(7/2、1/29江別市えぼあホール 参加)
- 社会福祉協議会主催 ボランティアワークキャンプ
(夏季休業中8/3・8・9 中止) (冬季休業中1/12 江別市特別養護老人ホーム静苑ホーム 参加)
- 北海道マラソン給水ボランティア
(8/28札幌市内 参加)
- すばGOMI甲子園2022北海道大会
(9/24札幌 参加)
- 高文連石狩支部ボランティア研究大会への参加
(12/8オンライン 参加)
- 高文連全道高等学校ボランティア研究大会への参加
(11/25 不参加)
- 児童発達支援・放課後等デイサービス施設の運動会補助
(11/27 参加)
- 校内ペットボトルキャップ回収活動 (通年 実施)

05

成 果

....Achievement

- 「各種募金活動」 緑の募金（6/21、22）、あしなが学生募金（10/9）、歳末助けあい募金（12/20、21）
校内募金活動は2つ実施した。そのうち緑の募金活動に関しては、積極的な募金活動が評価され、江別市民憲章推進協議会より感謝状をいただいた。歳末助けあい募金活動については、生徒会会計とタイアップしての協力となった。コロナ禍で、今まで制限されていた街頭募金活動も少しずつ緩和され、今回は札幌駅前で行われたあしなが学生募金に参加することができた。
- 「パラ・スポ in Ebetsu」（4/23江別市総合体育馆 参加）
フライングディスク協会より依頼を受け、パラ・スポーツの祭典に運営補助として参加した。事前指導もふくめ、ディスク協会会長の丁寧なご指導により、生徒はノーマライゼーションの理念を学ぶことができたのではないかと考えられる。
- 北海道マラソン給水ボランティア（8/28札幌市内 参加）
朝早い時間から夕方まで太陽の下で忙しく仕事をしていたので、身体にかかる負担は大きかった。ただ、生徒には良い思い出になったようで来年度も参加したいという声をたくさん聞くことができた。
- すばGOMI甲子園2022北海道大会（9/24札幌 参加）
HBCフレックスより依頼を受け、豊平川沿いでゴミ拾い大会に参加した。天候の関係で日程変更となり、参加人数が減ってしまったが、他校生徒との交流もあり、良い刺激となった。
- 江別市演奏会運営ボランティア（7/2、1/29江別市えぼあホール 参加）
本校吹奏楽部より依頼され、江別市内学校の合同演奏会の運営に協力した。運営側の人間として責任を伴う仕事も任せていただき、良い意味での緊張感を経験させることができた。
- 「校内ペットボトルキャップ回収活動」（通年）
今まで石狩管内ではこの活動に取り組んでいる学校が多い。ビニール手袋をはめて衛生的に行えば安全な活動ではあるが、感染状況が思わしくない時期は活動を控えた。45Lのゴミ袋を満杯にしてリサイクル業者に持って行くことができる状況になったので、年度内にそこまでやらせたい。
- 「運動会補助ボランティア」（11/28 東野幌小学校）
令和元年度より、ハンデのある子どもたちの発達支援を目的とした放課後デイサービス施設より依頼を受け、運動会補助ボランティアをしている。昨年度より感染症対策を万全にして開催するということで、協力させていただいている。参加者も昨年同様、同程度いらしていた。主催側である(株)スポーツマインドの立てたプログラムに沿って競技を進め、朝から昼過ぎまで行われた。



06

反省点

....Reflection

- 昨年度に引き続きコロナウイルスの影響で、通年で行っている幼稚園訪問等の活動を実施することは難しかった。ただし、オンラインシステムが認知され整ってきたこと、またコロナ禍の長期化を見込んだ上で、制限されていたものが緩和されてきており、昨年度よりも格段に活動の幅が広がった。
また、今年度はペットボトルキャップの回収活動も習慣化され、生徒の手だけで実施可能なものとなった。更に、高文連支部大会にも参加し事前準備から発表に至るまで部員が一丸となって動くことができた。オンラインではあるが、近辺校との交流もでき自分たちの活動を見直す良い機会になった。

01

テーマ

....Theme

02

活動内容

....Content

03

活動のねらい

....Purpose

04

活動展開

....Expansion

- 独居高齢者配食サービス・クリスマス会は、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、想定した会を実施し、独居高齢者へプレゼントを作成し、贈呈した。
また、奉仕活動の一環として、村内の清掃を本校の生徒会中心に実行し、必要物品等を購入した。
- 地域と連携した福祉関連行事への参加を通して、自己のコミュニケーション能力の向上をはかるとともに、心豊かな人間形成を目指す。
- 花いっぱい運動は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、担当区域を本校生徒、教員のみで花壇造成をした。独居高齢者配食サービス・クリスマス会は調理を伴うため、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。校内では、招待した想定で実習を行った。
- 独居高齢者クリスマス会では、毎年プレゼントを寄贈しているため、今年度も本校3年生が作成し、寄贈した。(クリスマスカード) 直接渡すことができないため、動画を作成しプレゼントと共に社会福祉協議会の職員の方を通して寄贈させていただいた。
- 校内ボランティア活動・奉仕活動として、村内の清掃活動を行った。ゴミを拾うために必要な道具を購入し、生徒会や本校のHR美化委員会が中心となり、全校生徒に指示を出し、各班に分かれて行動し、村内の美化に努めた。



05 成 果

....Achievement

- 今年度も、新型コロナウイルスの影響により中止にせざるを得なく、多くの活動はできなかった。しかし、感染状況が落ち着いている時期に感染予防対策を徹底し、少人数によるお弁当配食とクリスマス会を想定した実習を実施できた。本校で収穫された野菜を使用し、高齢者に配慮した味付けや調理工夫を学び、活かすことができた。
- また、本来クリスマス会で寄贈予定であったプレゼントは、例年通り作成した。本校農業福祉コースの3年生がクリスマスカードを作り上げ、今年度も直接渡せない代わりに動画を撮影し、社会福祉協議会の方に届けてもらうことができた。動画はクリスマスの雰囲気がわかるように装飾と生徒自身も帽子をかぶるなど、視覚的にも工夫した。
- 今年度、ボランティア・奉仕活動の一環として、村内の清掃活動を行った。実施時期が遅くなってしまったこともあり、清掃中は肌寒い中活動したが、生徒からは「来年度も継続して行いたい。」と意欲的な声が出ていた。村内の清掃にもなり、地域住民への高校のアピールにも繋がる活動であり、今後、地域の方々などとも協力して活動していきたい。
- 開催できなかった活動もあり残念であったが、現状で行えることを考え、その中で活動していたことが、大きな成果である。



06 反省点

....Reflection

- 来年度以降も工夫して継続していく必要がある。来年度からは新しい生活様式も様々な面で緩和されていく傾向が予想されるため、例年行っている活動に加え、生徒の学びに繋がる活動や地域の方との交流できるような活動を計画し、今年度の取り組みを活かし、来年度に臨みたい。



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

